

前回見直し時の専門委員会における課題への対応について

前回の渡良瀬貯水池、荒川貯水池における類型指定見直し（暫定目標見直し,平成 30 年 3 月 28 日 環境省告示第 28 号）にあたっての議論の中で、2 水域に適用する水質予測手法についての課題が提起され、専門委員会報告（中央環境審議会水環境部会（第 44 回），平成 30 年 2 月 20 日）に以下の水質予測手法に係る検討課題が記載された。

なお、これらの貯水池は一般的なダム湖と運転管理の方法が異なるため、水質汚濁のメカニズムも異なると推測されることから、今後は、貯水池の運転管理状況や水質保全対策の効果などを注視しつつ、流入率をはじめとする関連の情報を整理し、貯水池の特性を考慮した水質予測手法について検討していく必要がある。

以上を踏まえ、令和 2 年度～令和 4 年度に検討会を設置し、上記の 2 水域に適用する水質予測手法について検討を行った。

前回見直し時の検討課題	検討会での検討概要
①貯水池の運転管理状況や水質保全対策の効果などを注視	<ul style="list-style-type: none"> ・ 貯水池の運転管理状況を整理（流入、放流、水位の状況） ・ 水域管理者による水質保全対策の実施状況を把握・整理 ・ 現況水質（実測値）には、水域内での水質保全対策による効果も含まれる。
②流入率をはじめとする関連の情報を整理	<ul style="list-style-type: none"> ■ 運転管理方法の特殊性 <ul style="list-style-type: none"> ・ 渡良瀬貯水池・荒川貯水池では、貯水池への流入が人為的にコントロールされ、上流からの流入水が全てダム貯水池に流入してくるわけではない。（現在湖沼指定がなされている人工湖沼では他に例はない） ■ 流入率の特殊性 <ul style="list-style-type: none"> ・ 流入率（水域への流入負荷量／流域の発生負荷量）を、国が湖沼類型に指定している他の人工湖沼での流入率と比較すると、突出して小さい。（特殊な運用）
③貯水池の特性を考慮した水質予測手法について検討	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水質特性を分析した結果、対象水域の内部生産の影響を示す結果が得られたが、現況水質（実測値）には、水域内での内部生産の影響も含まれる。（上記①に示した通り、水質保全対策による効果も含まれる） ・ 以上を踏まえ、直近の実測値に基づいて暫定目標見直し案を検討・設定するものとし、検討にあたっての判断材料として、水質経年変化、水運用、気象、汚濁負荷の将来見込み、水質保全対策実施状況等を参考とするものとした。